2008.10.31 作成

DS

電動ドロップシーダー

取扱説明書

1. 安全に関するご注意

- 必要な安全規則（労働安全規則など）を遵守してください。
- DS を動作させるときは、操作者が、必ず周りの安全を確認してから始動すること。
- 電源を外す時は、感電に十分注意すること。
- 機械のメンテナンスや休憩中など、動作すれば重大な事故に発展する恐れがあるときには、動作することの無いように必ず電源をはずすこと。

2. 日常点検

- ロール点検

  ロールの変形、傷を確認する。

- 異音確認

  動作中に異常音を感じたら緊急停止し、異常を確認する。

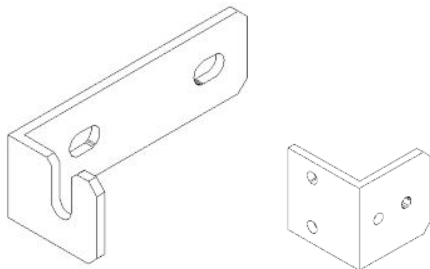
  ただし、安全カバーを開けての確認の場合は、十分安全を確認した上で作業を行うこと。

3. 定期点検

- 駆動ベルト

  ゆるみが無いか、異常音を発していないか確認する。ゆるんでいる場合は、テンションを調整する。調整が利かない場合は交換する。

4. 本体の取付

- 本体を S&S に取付する場合は、専用の取り付けブラケット大、小を取付ください。

- ブラケット大は、スプリングワッシャーのばね圧が少し掛かり気味、手で動く程度に締めてください。
- S&S は、チェーン側が基準なので、刃物に合わせて DS のフレームの位置を調整してください。
- 後は、ブラケットなどを確実に固定してください。

5. 電源、コントローラーの接続
- コントローラーは、トラクターの操作しやすい位置に固定してください。
- モーター側のコネクターに結線してください。
- トラクターと S&S に配線クランプを用いて配線を固定しますが、S&S とトラクター間は、上下しますので、余裕をもって配線してください。
- スイッチが OFF であることを確認して、電源側をトラクターバッテリーに接続してください。この時、感電に十分注意してください。
- 後は、余分な配線を外部から引っかからないように束ねて固定してください。

6. 試運転
- 軽量トユをロール真下にセットしてください。
- ベアリングホルダーのネジをゆるめ、調整ネジを使ってロールとフレームの隙間が無くなるよう調整してください。調整後ベアリングホルダーのネジを固定してください。ベルトカバーは、取り外す必要はありません。
- 種を入れ、空回しを十分してください。計量に差が出る場合があります。
- 種を戻し、種の計量をしてください。

7. 種の計量
- １０M を計測して、始めと終わりに目印を付けておいてください。この区間を使用するトラクターで、一定の播種速度で走行し、走行時間をストップウォッチなどで計測してください。この計測時間を K とします。
- S&S を下ろさずに、計量トユを付けたまま、DS コントローラーのスピードコントローラーノブを適当な位置にし、スイッチを K 時間、入り切りして種重量を計測してください。
- DS が 1000 幅の場合は、この K 時間間に出た種量が、10m×1m＝10 ㎡となりますので、10 で割ると１㎡の種量が算出出来ます。
- 数回この作業を繰り返して、コントローラーのボリューム位置を決めてください。

8. 播種作業
- 種計量の時の速度で、走行するようにしてください。
- 1 度目は播種をせずにスパイク刃のみで走行し、30 度振った方向に播種しながら走行することで、倍の播種用穴を開けることが出来ますが、下がゆるい場合は、トラクターのタイヤで、スパイク刃で開けた穴をふさぐ場合がありますので、適宜ご判断ください。
- この作業を、芽吹いたぐらいをめど（1 週間程度後）に数回おこなうことで、定着率を上げることが出来ます。（少量多回撒き）
- 播種作業の後は、必ずロールとフレームの間に１ｍｍ以上空間を空けてください。小一時間置いて、ロールをまわしてみて変形が無ければ良いですが、変形しているようであれば、さらに空間を空けてください。フレームと接触している場合があります。

以上